

公開研究会



五木寛之「自力と他力」と 安田八十五「依存と自立」

「依存と自立」と「他力と自力」: 依存症社会論序説 (2)

麻薬・薬物依存症が関東学院大学でも発生してしまった。「依存症とキリスト教」研究プロジェクトの主たる目的は、『依存症』及び『依存症社会』の構造と特質を分析し、解決のための方法と手段を探ることである。今回は、安田八十五(2007)で提出した「依存と自立」という概念と作家の五木寛之(2006b)が提唱している「他力と自力」という考え方との関係に言及する。キリスト教では、自力では出来ないことを、『神に委ねる』、つまり『神に依存する』と言われることが多い。「神」こそ、依存症者に許される『唯一の依存対象』なのである。神以外への過度の依存が、「依存症」を発生させてしまうのである。『神への依存』こそ、神や仏という『他力』に依存することである。逆に言うと、「他力」とは、『神(仏)への依存』ということの意味する。第5回研究会を下記のように開催しますので、ぜひご参加をお願いします。

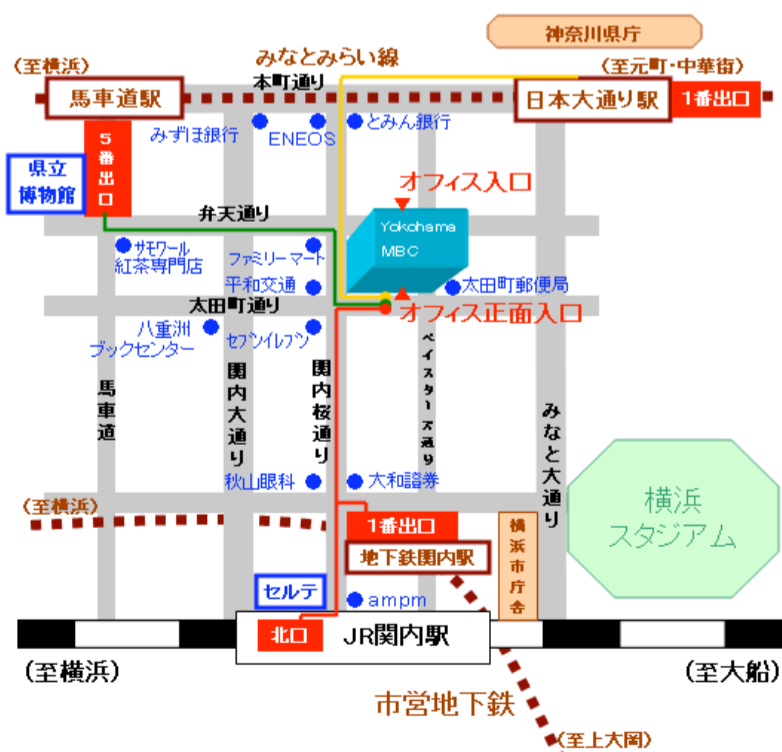
「依存症とキリスト教」研究プロジェクト代表・安田 八十五

日時 2008年2月8日(金) 会場 KGU関内メディアセンター
17:30～20:00 TEL:045-650-1131

講師 安田八十五 氏
(関東学院大学経済学部教授・キリスト教と文化研究所員)

協力 「基督者の生き方・成長の12ステップグループ」

どなたでもご自由にご参加ください



- みなとみらい線日本大通り駅1番出口より徒歩5分
- みなとみらい線馬車道駅5番出口より徒歩5分
- JR関内駅 北口より 徒歩5分
- 地下鉄関内駅 1番出口より徒歩5分

主催 関東学院大学「キリスト教と文化研究所」
依存症とキリスト教研究プロジェクト

電話:045-786-7873 FAX:045-786-7806

Eメール kgujesus@kanto-gakuin.ac.jp